

# えひめ地域づくりアワード・ユース2023

次の世代の地域づくりを担う若い世代の活動を支援し、地域活性化につながることを目的に、高校生等の地域づくりに関する活動を表彰する『えひめ地域づくりアワード・ユース2023』を当センターとえひめ地域づくり研究会議との共催で開催しました。



会場の様子

第7回目となる今回の応募数は10校19作品(総勢160人)でした。11月中旬に書類による一次審査を行い、令和5年12月16日(土)、愛媛県男女共同参画センター1階多目的ホールにおいて、上位5団体を対象とした最終審査及び表彰式を実施しました。どの取り組みも熱意にあふれ、地域への愛着と誇りを感じる作品の数々でした。審査の結果は次の通りです。

## 最優秀賞

- ・愛媛県立伊予農業高等学校
- 「伊予農業高等学校生活科学科 食物班」

## 優秀賞

- ・愛媛県立西条農業高等学校
- 「石鎚黒茶SELプロジェクト」
- ・愛媛県立野村高等学校「N-ジオチャレ」

## 審査員特別賞

- ・愛媛県立小松高等学校「チームカメラ」
- ・愛媛県立大洲農業高等学校「生産科学科果樹班」

## 特別賞

- ・愛媛県立西条農業高等学校
- 「在来作物「ムクナ豆」活性化プロジェクトチーム」

- ・愛媛県立西条農業高等学校「Team CNF」
- ・愛媛県立北宇和高等学校三間分校
- 「愛媛県立北宇和高等学校 三間分校 地域情報ビジネス部」

- ・愛媛県立北宇和高等学校三間分校
- 「愛媛県立北宇和高等学校 三間分校 地域情報ビジネス部」

- ・愛媛県立小松高等学校「小松高等学校経済研究部」

- ・愛媛県立小松高等学校「小松高等学校経済研究部」

(順不同)

当事業は、愛媛県、愛媛県教育委員会、愛媛新聞社、南海放送、テレビ愛媛、NHK松山放送局、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛(順不同)よりご後援をいただきました。併せて、高校生の地域づくり活動にご理解・ご賛同をいただいた14の企業・団体の皆様方から、副賞として商品等をご提供いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

以下、最優秀賞・優秀賞を受賞された3校の活動をご紹介します。



優秀賞  
愛媛県立野村高等学校  
「N-ジオチャレ」



最優秀賞  
愛媛県立西条農業高等学校  
「石鎚黒茶SELプロジェクト」



特別賞  
愛媛県立伊予農業高等学校  
「伊予農業高等学校生活科学科 食物班」



活動発表の様子



審査員から質問

## #伊予農福連携プロジェクト 「伊予農×ノウフク×企業共同で共生社会の実現を目指す」

愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科  
「食物班」

### はじめに

伊予市の高齢化率は34%を超えており、全国平均を大きく上回っています。伊予市は令和3年度から令和8年度までの6年間、伊予市第3次障がい者計画を策定しており、「共生社会の実現」を目標にしています。私たちは伊予市唯一の高校の生徒として、伊予農福連携プロジェクトを始動し、高齢者や障がいがある方と農作物の栽培、メニューや商品の考案を行い「共生社会の実現」に尽力したいと考えました。



集合写真

### ほっとネットいよしの連携

伊予市内の福祉団体「ほっとネットいよし」と連携し、制度の狭間にある方へのサポートや社会参加のきっかけ作りをしています。定期的に、高齢者や障がいがある方に生き生きと仕事をしてもらうための「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を開催しています。私たちが地域

食材を使用した料理の考案・調理を担当し、高齢者や障がいがある方に接客を担当していただいています。また、料理に使用する野菜を入所施設で栽培していただき、カフェ当日に、一緒に収穫し、料理に使えるものを選別しました。今後も、農福連携カフェが実施できるよう、福祉施設と栽培する農作物について相談していきます。

### 株式会社和光ワールドとの連携

農福連携を進めている企業、(株)和光ワールドと連携し、自然農法の米、きくらげ、大豆を栽培し、商品化・メニュー化を目指す活動をしています。(株)和光ワールドのきくらげは、愛媛県で唯一ノウフクJASを取得しており、私たちが栽培を手伝い、普及活動に努めています。

にぎたつ会館と連携し、きくらげを使ったランチメニューを考案し、9月から11月に土日限定でランチ提供されました。また、(株)



(株)和光ワールドとの連携



ほっとネットいよしの連携

光ワールド、青森県の八戸協和水産(株)と共同し、農福連携商品の企画・製造・販売について協議し、きくらげ鯛飯・つくねのレトルト食品のトライアル生産が始まりました。

### 地域の施設と伊予農福連携

地域の施設から、「使っていないプランターがたくさんある。」と相談を受け、プランターを整備し、高齢者の方々と花や野菜を植えました。高齢者の方々と一緒に、施設の食事に使用できる野菜を植え、栽培・収穫を楽しんでいただき、施設の食事に使用していただきました。



地域の施設と伊予農福連携

### まとめと今後の課題

ほっとネットいよしの連携については、「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を開催することができ、お客様の満足度、スタッフの達成感ともに、高評価をいただきました。今後は本格的に農福連携カフェが開催できるよう、施設での農作物の栽培を目指します。

(株)和光ワールド、八戸協和水産(株)と共同し、「きくらげ鯛飯」「つくねのレトルト食品の商品化も決定しました。



まとめと今後の課題

## 石鎚黒茶S E Lプロジェクトの取組

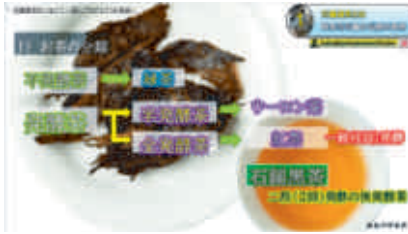
愛媛県立西条農業高等学校  
「石鎚黒茶S E Lプロジェクトチーム」

### 石鎚黒茶とは

西条市の伝統である「石鎚黒茶の製造技術」は、平成30年、四国山地の発酵茶の製造技術として、食文化で初めて「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択され、今年「重要無形文化財」に指定されました。

### 石鎚黒茶の製造

私たちS E Lプロジェクトチームは、製



お茶の分類



西条市伝統の石鎚黒茶

造から商品開発、普及活動を展開しています。今年、生産団体であるピースさんと一緒に蒸し作業を行いました。枝葉の整理から洗浄、蒸したもののから枝を取り除く作業と工程を体験することができました。蒸し作業後は、一次発酵です。一次発酵以降は本校の円山農場で、保管しました。枝葉と一緒に保管することで空気中の菌量を増やし繁殖を補いました。そして一次発酵に成功し、次にもみ作業を行いました。空気を抜きながら、乳酸菌発酵の繁殖を助けるためです。その後、真空状態にし、二次発酵を行いました。こうして私たちの手で伝統の石鎚黒茶を作り上げたのです。

### 研究活動の内容

黒茶の肥料化に向けた研究も実践してい



自分たちで作った黒茶



黒茶一次発酵の様子

ます。自分たちで栄養成分分析を実施。茶葉には、特に窒素、カルシウムが多く含まれ、トマトのしり腐れ予防効果についての試験も行いました。栄養効果と免疫力の向上で、試験区にはしり腐れ病が発生しませんでした。結果、しり腐れが3割以上軽減されました。また、ミニトマトでは、栄養効果と免疫力の向上による成長促進が目に見える形で証明されました。

また現在、本校で取得している焼き菓子の製造販売許可を利用し、パウンドケーキを商品として愛媛県民祭で販売しました。結果30本を売り上げています。

### 普及活動

6月に開催された「国重要無形民俗文化財指定記念シンポジウム」では、行政、3団体、専門学芸員とともに、私たちも活動の報告を行いました。11月には、今年度の新茶試飲会にも参加し、活動報告を行いました。石鎚黒茶の文化は、先人の築いた「地域の宝」です。ここ西条市の未来のために今後も活動を続けていきます！



肥料化に向けた研究

愛媛県立野村高等学校  
「N-ジオチャレ」

「のちカツ」とは？

「のちカツ」ワクワクプロジェクト」は、野村地域づくり活動センターをもっとみんなが集まる場所にしたい！という思いから、2023年の夏に始まったプロジェクトです。

主要メンバーの中高生5人、センターを運営・管理する職員や地域団体のみなさん、手伝ってくれる中高生やおっちゃんたちとワイワイ活動しています。どんな空間にしたいか、中高生に聞いたアンケートをもとに計画し、必要な家具を作ったり、貰ったりして居心地のいいセンターを作っています。現在は、中高生が勉強しやすい窓際カウンター席を製作中です。



初めての全体打ち合わせ



物置になっている空間にカウンター席を作ろう!と計画中

「のちカツ」への想い

野村地域づくり活動センターは、これまで野村公民館として町民の方々に利用されてきました(令和5年4月改称)。私たちも、小さい頃は習い事や地域行事で利用したり、大人の方は会議やイベントを実施したりと、地域づくりの拠点としてたくさんの人々が集まる場所でした。しかし、近年は新型コロナウイルスの影響やセンターの老朽化

などもあり、センターに訪れる人が減ってしまいました。特に、中高生で利用している人は少なく、この現状を変えるためにも、私たち中高生が中心となってセンターを変える必要があると思いました。

「のちカツ」で知る地域の優しさつつながら

私はこの活動で、野村町と野村の人がもつと大好きになりました。ここで、大好きポイントを紹介しましょう！まずは関わってくださる大人の方々。カウンター用の木材をどうしよ



相談しながら設計しました



おでんと焼き芋の差し入れをもらいました！

うかと悩んでいたなら、センター長の岡澤さんが、お知り合いの方に頼んで無償で木材を手に入れてきてくださいました！次に地域団体やセンター職員のみなさん。朝早くからセンターを開け、美味しい焼き芋やおでんをご馳走してくださいました。そして、通りすがりのおばあちゃん。「何しているの？頑張ってるね！楽しみだね！」とあたたかい言葉をかけてくれました。私たちはたくさんの人に支えられて活動ができています。

中高生から始める地域デザイン

私は、この大好きな野村の良さを残していくためには、中学生や高校生がもつと地域に関わることが必要だと思います。野村のような田舎だからこそ、地域の人と中高生が支えあって地域を盛り上げることができるし、中高生だからこそ出るエネルギーやアイデアで地域をよくしていけると思います。「中高生から始める地域デザイン」の第一歩として、のちカツは「中高生だけ」でなく、地域の人と作る「まちの活動」へと進化していきます！



どのくらいの高さにするか検討中



譲ってもらった木材はまずは綺麗にヤスリがけ